インドネシアの思い出ー2

房野 康滋（73歳）
（日本大学出身）

インドネシアの思い出追加分を、箇条書きみたいに記してみます。

—暑さに閉口

夜暑くて寝られなかったのが問題でしたね。ベッドは汗でびっしょり体の形の地図が出来るほど。涼しさを求める一心でシャワーを浴びても出る水は気温と同じく温かく役に立たない。あれには閉口しましたね。

それほどの暑さの中でも革ジャンを着ているインドネシア人がいたのには驚きでした。何でも贅沢の象徴みたいに着ているとか聞きましたが——。

—市内を流れる河

そこで洗濯をしている人、泳いでいる人、その前をプカプカとウンチが流れている。そんな事お構いなく知らん顔している人々を見て、私はド肝を抜かれました。　まさに別世界だと痛感。

—バリ島

話では私たちもバリ島に行けるという予定だったはず。それが飛行機の予定が取れず変更、中止、になったのは返す返すも残念。これは今でも残念です。その後ミュージカル映画南太平洋が確かビングクロスビー、ダニーケイ主演で舞台はバリ島が中心。その歌は部分的ですが今でも覚えており、口ずさむほどです。

そこに行けなかったことに歯軋りしたものです。最も今では訪問客が多すぎて観光ズレしてしまったとも聞いておりますが——。

—バスの運転手

小柄な気さくな人でした。戦争で日本軍配下の経験があり、それを話してくれたりして日本語で　「なんだ——お前は　！」　なんて日本人上官にビビらされたことも話してくれました。また、その人に出かける前に誰かが「洗濯物乾かしてあるから見といてくれ」と頼んだら、帰ってくるまでジ——っとその洗濯物の下横で寝ころんで動かず見張っていたのには、これまたびっくりしましたね。時間の感覚が全然違う。

—メキシコ楽団

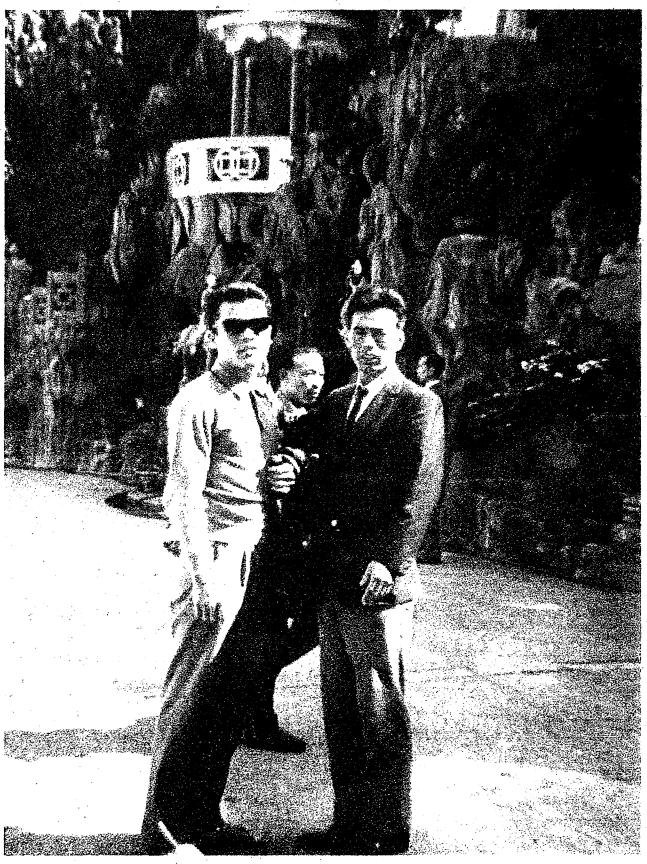
閉会式にメキシコ楽団も参加。金髪歌手も交えてマリアッチを賑やかに演奏しながら行進。その金髪女性は大統領スカルノのお気に入りで夕食にも招待されていたとか聞き入っておりました。

その楽団がその後日本にも来て公演しました。当時ビクターレコードに勤めていた仕事柄 楽屋にも入れたので「オー！ インドネシア以来だ」 と もっともらしい顔して金髪女性と話に興じました。残念ながら翌日移動と言う事で目的の‘金髪と京都でデート’はなりませんでした。インドネシアの付録の思い出話です。

—頭山立国とか言う戦前右翼の巨頭（頭山満）のお孫さん

この人がガネフォの日本チーム団長として選手団を率いたが、この人は将来政治家に？　と思って見守っておりましたが、その気配は全くありませんでしたね？　その後１年半ぐらいで日本を出てしまったので私だけが知らない事なのでしょうか？

久振りにこんな事を思い出す事が出来て嬉しいです。皆さんの思い出集が出来るのを鶴首します。



左が私（房野）
帰りの「香港」にて